



2022年4月26日

各位

会社名 日立金属株式会社  
 代表者名 執行役会長 兼 執行役社長  
 西山 光秋  
 (コード番号 5486 東証プライム)  
 問合わせ先 コミュニケーション部長 坪内 泉  
 (TEL. 03-6774-3077)

当社の親会社 株式会社日立製作所  
 代表者名 執行役社長兼 CEO 小島 啓二  
 (コード番号 6501 東・名)

繰延税金資産の取り崩し、連結業績と連結業績予想および前期実績値との差異、  
 並びに個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社が本日公表した2022年3月期通期連結業績(IFRS)と2022年1月31日に公表した2022年3月期通期連結業績予想および前期実績値との差異、並びに2022年3月期の個別業績と前期実績値との差異が生じたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 2022年3月期通期連結業績(IFRS)と予想値との差異

	売上収益	調整後 営業利益※	税引前 当期利益	親会社株主に 帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2022年1月31日公表)	930,000	26,000	20,000	13,000	30.41
実績(B)	942,701	26,809	32,740	12,030	28.14
増減額(B)－(A)	+12,701	+809	+12,740	△970	△2.27
増減率(%)	1.4%	3.1%	63.7%	△7.5%	△7.5%

※ 事業再編等の影響を排除した経営の実態を表示するため、営業利益からその他の収益、その他の費用を除いた指標である調整後営業利益を記載しています。調整後営業利益は、当社の親会社である日立製作所を中心とする日立グループ統一の利益指標です。

## (差異の理由)

2022年3月期業績は、売上収益、調整後営業利益は概ね業績予想の範囲内で推移しました。また、その他の費用が想定よりも縮減したことや、為替差益の計上等によりその他の金融収益が想定よりも増加したこと等により税引前当期利益は予想を上回りましたが、繰延税金資産の取り崩し額(118億円)により法人所得税費用が想定よりも増加したため親会社株主に帰属する当期利益は予想値並みとなりました。

## 2. 2022年3月期通期連結業績(IFRS)と前期実績値との差異

	営業利益	当期利益
	百万円	百万円
前期実績(A) (2021年3月期)	△49,213	△42,556
実績(B)	26,695	11,890
増減額(B)－(A)	+75,908	+54,446
増減率(%)	—	—

(差異の理由)

営業利益は、原材料価格上昇に伴う諸経費やエネルギーコスト増加の影響はありましたが、各種コスト構造改善施策の効果や、需要回復による売上収益の増加によって調整後営業利益が増加したことに加え、前年度にその他の営業費用として 35,857 百万円の減損損失を計上したこと等により増加しました。当期利益は、営業利益が増加したこと等により増加しました。

### 3. 2022 年 3 月期通期個別業績と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (2021 年 3 月期)	百万円 409,931	百万円 △17,052	百万円 △3,600	百万円 △8,975	円 銭 △20.99
実績 (B)	516,993	6,957	43,815	29,547	69.11
増減額 (B) - (A)	+107,062	+24,009	+47,415	+38,522	+90.10
増減率 (%)	26.1%	—	—	—	—

(差異の理由)

売上高は、COVID-19 の影響による需要減からの回復や原材料価格上昇（価格スライド制）により増加しました。営業利益は、売上高増加による影響や固定費削減等により増加しました。経常利益は、為替差益や子会社からの受取配当の増加等により増加しました。当期純利益は、法人税等調整額で繰延税金資産の取り崩し額（100 億円）の影響があったものの、固定資産売却益の特別利益計上等により増加しました。

以上